

平成22年2月

山本 学 学位論文審査要旨

主 査 清 水 英 治
副主査 岡 崎 俊 朗
同 池 口 正 英

主論文

NKG2D+CD4+ T cells with immune suppressive property increase in patients with colorectal cancer

(大腸癌患者におけるCD4、CD8 Tリンパ球及びNK細胞のNKG2D発現に関する検討)

(著者：山本学、齊藤博昭、木原恭一、堅野国幸、池口正英)

平成22年 Yonago Acta medica 53巻 9頁～16頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は大腸癌患者においてCD4、CD8Tリンパ球及びNK細胞に発現するNKG2Dについて調べ、それらと腫瘍免疫との関わりを検討したものである。大腸癌患者においては健常人と比較してCD8Tリンパ球、NK細胞ではNKG2Dの有意な低下を認めた。このNKG2Dの低下は腫瘍浸潤リンパ球でより顕著であった。CD4Tリンパ球においてはNKG2Dの発現は健常人と比し有意に増加しており、これら増加しているリンパ球では抑制性サイトカインの産生が上昇していた。これらのリンパ球におけるNKG2Dの増減が、腫瘍の免疫回避に大きく関与していると考えられた。本論文の内容は、大腸癌におけるCD4に発現するNKG2Dとその免疫抑制との関わりについて検討しており、明らかに学術水準を高めたものと認める。